

<プログラム検討>

グループ内で、順に各自のプログラムを発表する。それぞれのプログラムに対し、聞いた人が意見や感想（前向きなもの）を書いてポストイットに書き、各発表者に渡す。

それらの意見も取り入れ、できたプログラムを各自が模造紙に清書し、一人1つのプログラム素案を作成する。



<プログラムの発表と相互評価>

1人ずつプログラムを掲示して発表。それに対し、全員が、意見や感想をポストイットに書き込み、それぞれの模造紙に張ってフィードバックする。



<ふりかえり>

今回の研修での気づきをシートに記入する。

<あいさつ、終了>

(記録：森田由樹子)

《参加者のふりかえり》

- ・職種が同じ人たちと、環境についての研修ができ、共通の話ができた。他の施設の苦労話などが直接聞けてよかった。また、県内の施設見学に数千人が訪れていることが印象に残った。
- ・施設へ来られた方々により深く理解してもらうことが、今後の環境への影響を左右する可能性があります。「話す」と「体験」していただくことの2点が、よい施設説明につながると思います。できるだけいろんな方向から体験していただきたいと思います。
- ・一方的に説明するだけでなく、体験型・参加型にも取り組んでいきたい。日常生活での実行に結びつける視点が参考になった。
- ・体験と体験学習が違うということがわかった。見学時の体験の後に、少しじっくりと話をする時間を設けたい。
- ・もう少し視点を変えて、物事を考えなくては行けない。
- ・先生方や教育委員会の方々と連携が取れたらいいなと思う。

《ファシリテーターのふりかえり》

アイデアを出したり、プログラムを作ったりという創造的な作業に取り組んだので、活気があった。発表時のフィードバックにも様々な意見が出て、プログラムへの関心の深さや実施への意欲が感じられた。ふりかえりの話し合いをする時間が取れず残念だったが、体験を重視した環境教育へ、意識を新たにさせていただいたのではないかなと思う。(本田)